

マンホールのひみつ

マン(人)が入れる大きさの空洞(ホール)をマンホールとよんでいます。そしてそれより小さいものはハンドホールと言います。マンホールの蓋と言えば、幾何学模様、黒光り、無骨で冷たいイメージがあるかも知れません。しかし、模様には滑り止めの大切な役割があります。ツルツルの鋼板だったら人や車が通過する際に、スリップする可能性があります。加えて、全体の摩耗を防ぐ意味もあります。凹凸があれば、その分全体の摩耗が少なくなります。摩擦と摩耗のバランスを考えて、マンホールはデザインされています。

蓋の種類(汚水・雨水・止水・分岐・ガス・電話など)や大きさ、形、デザインは様々です。地域の特色をデザインしたものも多数あり、カラーで彩られたものも存在します。今では街の外観の一部としても取り入れられています。尼崎市のマンホールは、中央にはきれいな水に棲む蛍やトンボや魚、その周りにキョウチクトウ(市の花木)がデザインされたものや「近松のまち あまがさき」と銘打ったものがあります。ハンドホールには、中央にキョウチクトウ、周辺にはベゴニア(市の草花)を配置したデザインを見かけます。



尼崎: ホタル トンボ 魚
(上坂部小北門すぐの路上)



カラーマンホール
(アルカイクの近く)



ハンドホール

(上坂部小学校南門付近)



詳細な模様

宝塚市のマンホールは、「市の花・スマレ」を中心に「音楽と文化の街のシンボルである鐘」が散りばめられています。矢印は水の流れる方向を表しています。大阪市中央区では大阪城、川西市多田地区は源満仲が弓を引く姿のマンホールがあります。このほかにも全国各地にその地域の特色を生かしたマンホールが見られ、その種類は5000を超えます。



西宮:: 甲子園球場 酒蔵 酒樽 サクラ



宝塚 スマレと鐘



宝塚 はしご車とスマレ



川西 リンドウとサクラ



伊丹 ハクチョウとカモ

日々の生活の中に...

私たちにあまり関わりなく何の変哲もないようなマンホールの蓋ですが、そこには機能性や安全性、歴史文化や景観を見出すことができます。そして繰り返しの日々や生活の中にも、五感を働かせると色々な発見や気づきがあります。決して目立ちたくないものの、確かな役割を果たしているものが、身の周りには沢山あります。それはものに限らず人も仕事もそうです。ややもすると私たちは華々しいこと、大きく目立つこと、有名なことだけに目を向けがちです。しかし、地味で些細な中に、無名な中に、黙々としている中に、当たり前と思われがちなものの中にも、それらはしっかりと存在しています。様々なものや人、その存在や役割が見えてきた時、自身のあり方や日々感謝の気持ちを再認識できるかも知れませんね。